

2006.9.23 高田さん、奥さん、古村先生と夕食

ソマチド液体をもらった。冷蔵庫に保存。ジャム用びん。

2006.10.10<sup>10</sup> ソマチド液体を夕方、2ml デイシユにクリーベンペンチないで入れ、蛍光顕微鏡で観察した。見たことのない生物らしき物体が活動していた。様々な集合体を作るようだ。

2006.10.13 午後、中道さんに頼んで、ソマチド液体 5ml をオートクレーブしてもらった。121℃、20分。使用容器：細菌滅菌用ガラス試験管 (15ml ?) アルミカバーあり。4時から6時：老化免疫ゼミ。ゼミ終了後、顕微鏡の使用法を片倉先生に聞いて、観察。オートクレーブサンプルに多くのソマチド存在。活潑に活動。写真。ビデオ撮影。オートクレーブしていないソマチドサンプル水にはソマチドを見つけないでできなかった。ソマチドがより小さな形に変化したのだろうか。

2006.10.14 オートクレーブ2日目。ソマチド確認できた。オートクレーブしていないサンプル水で、1個だけソマチド確認できた。写真撮影。

これまでの観察

1. 40倍で確認できる丸い、あるいは様々な集合体。200倍で観察すると、動きが活発なのが判る。顕微鏡の肉眼観察では動きはよく判らないが、モニターでは動きが激しく、形がよく判らない。40倍だと動いている様子がより分かりやすい。
2. 小さな物体は様々な形しながら動いている。
3. 集合体は様々な形をとり、一定方向に移動できる。大きくなると強く発光し、部分的に発光が強いところと弱いところがある。構成微小物体も活発に動いているようだ。大きな集合体と近くにある小さな集合体もしくは球状物体がまるで同期しているかのように、細かい動きが同調しているように見える。液体の流れにそってそれらの物体が動いているだけのようにも見えるが、途中で、相対位置が変わるので、独自の動きができるものと思われる。
4. デイシユに入れて、2日目午前中は観察できたが、夕方には観察できなくなった。
5. オートクレーブしても死なない生命体であるように思われる。
6. 動きが一樣ではなく、突然ぴつと動くような不自然な動きをする。

★高圧蒸気滅菌法(オートクレーブ滅菌法)  
高圧蒸気滅菌法は、適当な温度および圧力の飽和水蒸気中で加熱することによって微生物を殺滅する方法です。

適した被滅菌物	:	ガラス製品、磁製、金属製、液体、ゴム製、紙製、繊維性物品、培地など。
不適当な被滅菌物 用法上の特徴	:	高温高圧水蒸気に耐えられない物。 高圧蒸気中の物品を操作中、排気口からできるだけ排気し、滅菌される物品の中心部まで飽和蒸気が満たされるようにしなければならぬ。
滅菌上の条件 滅菌上の注意点	:	温度、圧力、時間。 性能のよい高圧蒸気滅菌器を用いることが必要。 高圧蒸気滅菌工程のバリテーションの実施が必要。

ト  
A